

ダボス会議を終えて

1月22日から、今年の世界経済フォーラムの年次総会、いわゆるダボス会議が開催された。今年のテーマは、Creating a Shared Future in a Fractured World(分断した世界の共通の未来を作ろう)、というものだ。興味深いのは、そうした世界の分断を促進しているように見える米国トランプ大統領自身が、ダボス会議に出席したことだ。G7のうち6カ国の首脳が集まった(残念ながら日本のみが不参加)今年のダボス会議は、例年以上に話題の多い会議になった。

各国首脳の発言については、別途エッセイを書いている(産経新聞「正論」2月8日掲載)ので、ここでは割愛しよう。いずれにしても、多国間主義(孤立主義ではない)の維持、自由貿易(保護主義ではない)の促進が強く主張された。同時に、こうした自由貿易などの利益が、社会全員に行き届いていないこと、そのために新たな工夫が必要な点も強調された。

ダボス会議は毎年この時期に、同じ場所で、世界の経済リーダーを集めて開かれる。その最大のメリットの一つは、毎年の議論を追うことによって、世界経済の流れを定点観測できることだ。例えば2009年の会議は、リーマンショック直後のことで、悲観一色となった。昨年は、世界経済が回復しているにもかかわらず、前年のBrexitやトランプ現象で、世界秩序の混乱が懸念される会議となった。それに対して今年は、少なくとも当面の景気に関するかぎり、極めて楽観的なトーンが支配した。

IMFによれば、2018年の世界経済は前年の3.7%成長から3.9%成長へと、さらに景気回復が鮮明になる。日本経済についても、内閣府は1.9%成長から1.8%成長へと、ほぼ昨年度並みの成長を見込んでいる。このことは、日本でも潜在成長率の約2倍の成長が続くことを意味している。ダボス会議に集まった多くの論者も、ほぼこうした楽観的な見方で一致していた。

会議の最後には、経済討論のメインセッションである「World Economic Outlook」が開かれる。フィナンシャルタイ

ムズの著名コラムニスト兼副編集長のM・ウルフ氏が司会し、主要国の経済大臣らが出席する。今年もIMFのラガルド専務理事を中心に、日本からは黒田日銀総裁が出席し、討論が行われた。このパネルでも、世界経済は良好であり、かつこれが当面続くという見方で一致。そのなかで興味深かったのは、黒田総裁が強気な発言を行い、日本のデフレ克服は比較的早期にできる、と述べたことだ。昨年も黒田氏は強気発言だったが、今年の発言を受けて一部のマーケット関係者は、「日銀は、近い将来量的緩和を転換する」と強調。結果的に円高になるという現象が生まれた。その場で聞いているかぎり、黒田氏はそうしたことを意図していなかったように思えるが、一部の関係者に相場を揺さぶる口実を与えたことは間違いない。

こうしたなか、今年の世界経済の最大のリスク要因は、(北朝鮮など地政学的なものを除くと)アメリカの金利上昇だと言えよう。大国アメリカの金利は、いくつかの要因で上昇しつつある。第1は、大幅な減税・財政赤字による金利上昇だ。第2は、連邦準備制度理事会(FRB)が金融緩和の出口戦略(引き締め)を採用しつつあること。そして第3に、景気が過熱気味で長期金利が上昇傾向にあることだ。アメリカの金利上昇は、同国の株価にマイナスの影響を持ち、この株安が世界に波及する。難しいのは、アメリカに併せて世界各国の金利上昇が見られることで、その程度如何でドル安にもドル高にもなりうる点だ。昨年の世界の資産市場は、変動(ボラティリティ)が極めて低位だった。しかし今年は、この傾向が大きく変化すると考えられる。

総じて楽観的な見方が支配する今年の経済だが、ダボス会議の最後にラガルド専務理事が残した言葉が印象的だった。

「天気の良い日にこそ、屋根を修理しなければならない」

第4次産業革命に向けて、日本を含め各国は積極的に構造改革を進めねばならない。しかし当面の楽観論の下で、こうした努力が薄れることが懸念材料だ。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、個人的な見解に基づく情報であり、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com